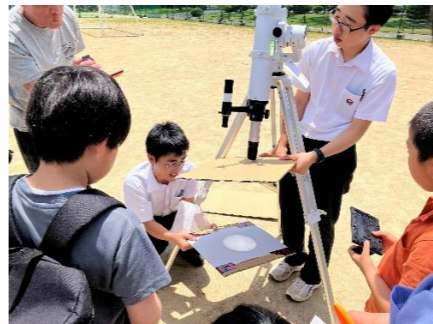


高校宇宙部、文化祭にて

6月13日に開催された本校文化祭で、高校宇宙部は三つの企画を実施し、多くの来場者で賑わった。
一つ目は、「中高合同モデルロケットコンテスト2026 in 楠隼」だ。中学宇宙技術部との合同開催で、参加者個人で作成したモデルロケットを一機ずつ打上げ、その高度を競った。
二つ目は、宇宙部員の解説付きで行った太陽の黒点観察だ。天体望遠鏡は夜間に使用することが多いが、太陽の黒点観察なら、昼間の活用が可能ということで、文化祭での観察会を試みた。
三つ目は、技術木工室での展示企画だ。今年には心強い後輩が入部したことで展示内容をさらに充実させることができた。



↑太陽の黒点の説明をする宇宙部員

「志す宇宙は無限」、さらに校外へ進出!

本壁新聞「志す宇宙は無限」は校外での掲示場所をさらに増やしていただけたことになった。新たに掲示させていただいている3施設を紹介する。
まず、鹿児島市立科学館だ。鹿児島市立科学館は、鹿児島市制100周年記念事業の一環として、鹿児島市立図書館との複合施設として建設された。館内では、鹿児島を代表する火山やロケットをはじめ、自然界の法則や科学技術、宇宙について体験的に学ぶことができる。また、プラネタリウムも設置されており、多くの人々が宇宙や科学への理解を深められる施設となっている。



↑鹿児島市立科学館



↑輝北天球館 (画像：鹿屋市公式サイト)



↑鹿児島市立科学館に掲示される「志す宇宙は無限」

宇宙部OBからオンライン指導・助言

5月31日、本校OBで鹿児島大学大学院理工学研究科に所属する橋口先輩から、昨年度2月に参加した「鹿児島ロケット」打上げ実験について、宇宙部で作成した実験報告書の指導・助言をオンラインで受けた。
宇宙部では、鹿児島大学などが開発するハイブリッドロケットに缶サットを搭載する機会をいただき、飛行中の加速度データ等を取付した。しかし、報告書を作成する段階で、得られた実験データをどのように整理し、考察を行うべきか悩みながらも、とりあえず報告書を作成した。そのうえで、OBである橋口先輩に指導・助言の協力を依頼した。
まずは、自分たちの作成した報告書をもとに、基本的な構成や実験結果のまとめ方、考察を書く際のポイントなどについて助言をいただいた。
橋口先輩は楠隼中学校第2期生、楠隼高校第5期生で、在学中は宇宙部の活動に積極的に取り組まれていたそうだ。今回の指導を通して、部員たちは、実験の目的、進め方、そして報告書作成への理解を深めることができた。

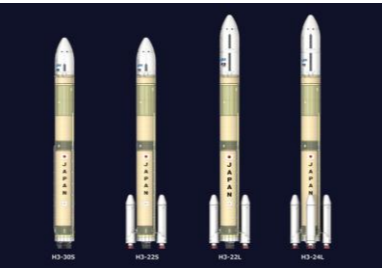


↑新聞アンケート
みなさんのご意見・感想をお聞かせください。

身近な宇宙

H3ロケット6号機、固体ブースターなし「30形態」で打上成功

宇宙航空研究開発機構(JAXA)は6月12日、H3ロケット6号機を種子島宇宙センターから打ち上げ、成功したと発表した。打ち上げは午前9時53分59秒で、模擬衛星を搭載した第二段の軌道投入に成功。さらに東京科学大学の「PETREL」など小型副衛星6機すべての分離にも成功した。
今回の6号機は、固体ロケットブースター「SRB-3」を使用せず、液体燃料エンジン「LE-9」3基のみで打ち上げる「30形態」で飛行した。補助ブースターを持たない大型液体ロケットの打ち上げは日本初となる。この形態はH3ロケットの中で最小かつ最も低コストとされており、今回の実証によって比較的軽量の衛星をより安価に打ち上げる選択肢が実用化された。これにより、H3ロケットはミッションの規模に応じた機体選択の幅をさらに広げた。
肝付では、あいにく雲の多い空模様であったが、楠隼からも国見の山から上昇するロケットの姿を垣間見ることができた。



→ H3ロケット6号機
の打ち上げLIVE
(画像：JAXA)
→ H3ロケットの
4つの形態
(画像：JAXA)

宇宙からのささやき

~我々は月を探索するためにここまでやってきた。
しかし、最も重要な発見は地球そのものだった~

ウィリアム・アンダース

アメリカ合衆国の元空軍少将であり、元電気技師、原子力技師、NASA宇宙飛行士、実業家。1968年12月、アポロ8号の乗組員として、地球低軌道を離れて月に向かった最初の3人のうちの1人



←ISS(国際宇宙ステーション)から分離されるHTV-X。HTV-XはH3ロケットによって打ち上げられた日本のISS補給船。この後、いくつかの実証実験等をした後、大気圏に再突入する。(画像：JAXA)

宇宙の声 7月

★1 (7日) 七夕
宵(18:00)〜21:00)の東の夜空に、おりひめ星(ベガ)とひこ星(アルタイル)が昇る。
★2 (14日) 新月
月明かりがなくなるため、街明かりの少ない場所に行くと「夏の大三角(ベガ・アルタイル・デネブ)」がきれいに広がり、それを貫くような形で南の空へと続く天の川を肉眼でもはっきりと観察することが出来る。また南の低空には赤い一等星のアンタレスを心臓に持つ「さそり座」も見える。
★3 (29日) 満月(バックムーン)
23:36にちょうどまん丸(望)を迎える。夏の夜空に輝く力強い月になる。バックムーン(Buck Moon)の由来は、アメリカの先住民たちが農作業などの季節の目安にするために各月の満月のつけた呼び名のひとつで、この時期に牡鹿(Buck)の新たな角が生え始めることに由来している。角が新しく伸びる様子から、「成長」「再生」「変化」「自信」などを象徴するパワフルな月とされており、新しいことを始めたり、目標に向かってエネルギーを後押ししたりしてくれると言われている。
★4 (30日)「みずがめ座δ(デルタ)流星群」と「やぎ座α(アルファ)流星群」が同時にピーク
29日が満月なので夜空は明るいかもしれないが、条件が良ければ1時間間に15〜25個の流れ星が見える。流れ星の見方は街灯や街の明かり、月の明かりをなるべく避けて空が開けた広い範囲でのんびり眺めることがコツ
⇨7月カレンダー

